

(様式1)

令和6・7・8年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン(2年次)【中学校】

【学校名等】

学校名	向日市立西ノ岡中学校							校長名	實川 明彦				
学 年	1 年	2 年	3 年				特別支援	生徒数	3 6 4 名				
学級数	3	4	3				3						
事業担当教員名	島津 真紀												
① 中学校区で目指す子ども像	・人とつながりながら、生涯にわたって主体的に学び続ける子ども ・自ら見つけた課題について、探究的に深く学び解決できる子ども												
② 目指す子ども像	生涯にわたり学び続ける生徒 (1) 挑戦する生徒 (2) 仲間を大切にする生徒 (3) 自ら考え、実行する生徒 授業における「話し合い活動」や日常の教育活動を通して、生徒の居場所づくり、あたたかな関係づくりを行い、失敗を恐れず、主体的に課題解決に向けた学習に取り組む生徒の育成を目指す。												
③ 目指す子ども像に対する現状と課題	・昨年度実施の生徒の授業アンケートによると、課題解決型学習への全肯定的な意識を持つ生徒の割合は、3割以上であった。また、肯定的な生徒の割合は、7割を超えている。日頃の授業実践と生徒の意識との乖離が少なくなりつつある。 ・これは、昨年度授業改善で取り組んだ「生徒の話し合い活動を伴う課題解決型学習」の成果が見られつつあると考える。今年度も引き続き生徒が自ら課題を見いだし解決していると実感できる授業の工夫に取り組みたい。												
④ 目指す子ども像に達するための仮説	・これまで取り組んできた「集団づくり」と「話し合い活動の充実」に引き続き取り組むことで、生徒一人一人が自己存在感や充実感を感じられる居場所づくりができ、失敗を恐れず、主体的に課題解決に向けた学習に取り組むだろう。 ・単元の学習の中で、生徒が主体性を発揮したくなる場を確保すれば、生徒が見通しを持って振り返る活動を通して主体的に取り組むだろう。 ・「心理的安全性」の項目にも着目する。 ・散布図のデータをもとに、生徒のタイプを4つに分けタイプ別に、生徒を上げます方法を工夫する。 <table><tr><td>a : 学力が高い・数値が低い</td><td>b : 学力が高い・数値が高い</td></tr><tr><td>c : 学力が低い・数値も低い</td><td>d : 学力が低い・数値が高い</td></tr></table>									a : 学力が高い・数値が低い	b : 学力が高い・数値が高い	c : 学力が低い・数値も低い	d : 学力が低い・数値が高い
a : 学力が高い・数値が低い	b : 学力が高い・数値が高い												
c : 学力が低い・数値も低い	d : 学力が低い・数値が高い												

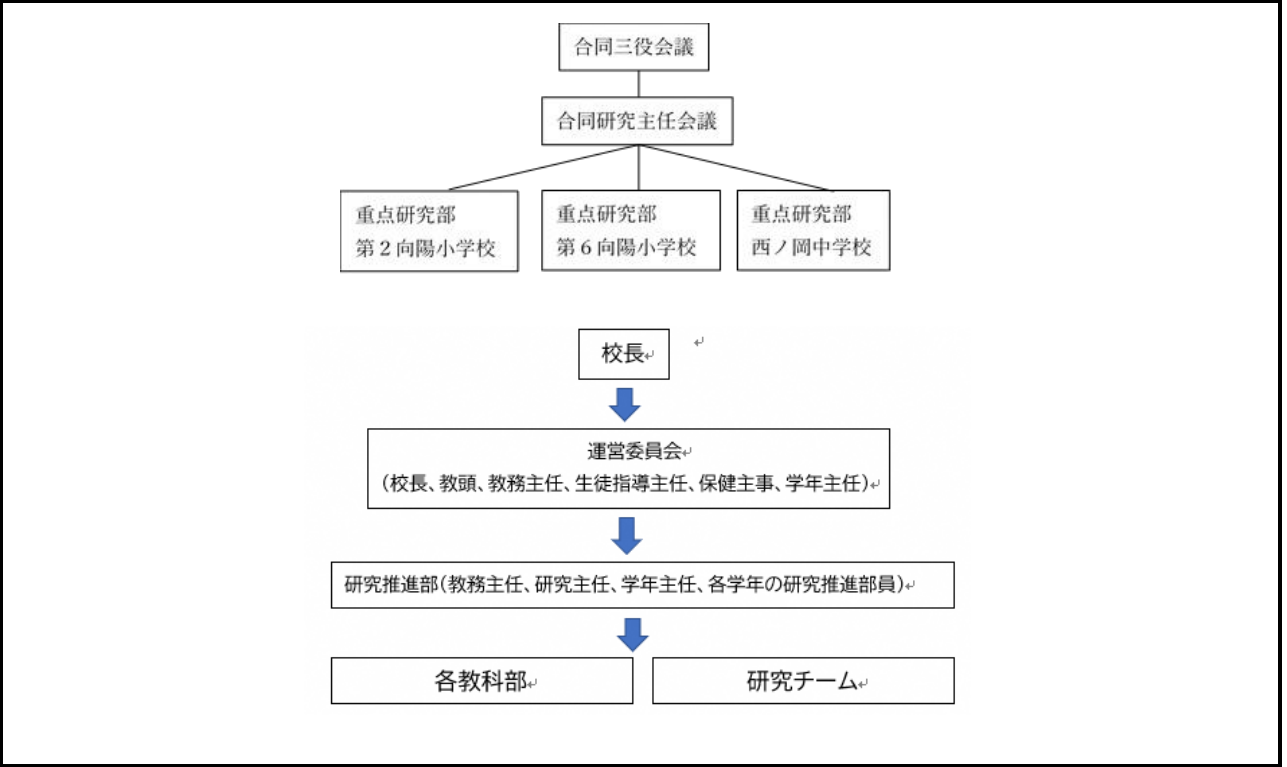
令和7年5月1日現在

※ 1 ～ 4 は、「研究計画書」として年度当初に記載する。

【 1 研究主題】

生涯にわたり学び続ける生徒の育成 ～他者と協働して課題解決に挑む～

【 2 研究組織体制】



【 3 具体的な取組内容】

- (1) 授業での振り返りの機会を活用して、自己評価（自分を見取る力）を育めるようにする。
- (2) I C Tの利用から活用を意識した授業づくりを行い、生徒の個別最適な学びを保障できるように授業改善を行う。
- (3) 「学習方法」のデータも活用し、全体の傾向をつかみ、授業改善に生かす。

実 施 月	研究内容、研究方法、成果の公開 等
4 月	校内研（研究主題の確認、「主体的」に取り組む生徒の具体像の共有）
5 月	校内研
6 月	校内研 ブロックの教職員向けに、府教委（府総合教育センター）より、学びのパスポートの概要についての説明を希望します。
7 月	指導主事訪問
8 月	8月上旬*学びのパスポート結果返却、第1回分析・活用研修会 校内研（結果分析と分析を生かした授業改善、個に応じた具体的な手立ての共有） 府教委指導主事による指導助言を希望します。
9 月	校内研
10月	10月上旬*第2回分析・活用研修会
11月	校内研
12月	校内研
1 月	授業公開*研究校交流会（予定）
2 月	校内研（生徒の変容の共有と次年度に向けた仮説の修正）
3 月	

【4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

学年	質問番号	質問項目	概念	備考
全	3 1	わからない問題にであったとき、調べたり、さらに深く考えたりしている。	自己調整	
全	4 3	人の話をじっくりと聞くことで、自分の考えがまとまることがある。	思考の柔軟性	
全	5 2	失敗してもあきらめずに何度も挑戦するほうだ	チャレンジ精神	
全	6 0	普段の生活の中で、自分がみんなとちがう意見や本当の気持ちをいっても、だれからも攻められたり傷つけられたりする心配はない	心理的安全性	
全	7 5	国語（算数・数学、英語）の授業では、ペアやグループになって自分の考えを言ったり友達の考えを聞いたりする機会がある	主体深	

* 5、6の分析項目は削除しています。

【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

個に応じた具体的な指導・支援方法 ・基本の定着のために、生徒自身が目標にした「暗記」を支援する。その際、全てを覚えるのではなく、覚えるべきことを選択する際に助言をする。また、解き方や調べ方がわかるように手順の整理や類題の整理などの支援をする。 ・他者と関わろうとする姿勢は良好であるため、級友とのやりとりは肯定的に評価しつつ、そのやりとりが理解を深めるものになっているかどうか確認する。 ・わからないことがわからない生徒には、1つ1つ整理しながらわからないポイントを確かめていく。その過程で、教科書やノート等を見なおすことを通して、調べることで「わかる」という経験を積ませる。
集団としての具体的な指導・支援方法 ・全員で考えることができるような課題を設定する。 ・振り返りシートを共有し、良いところをクラスで交流する中で、価値付けをしていく。 ・「教え合う」「交流する」のは、何のためか全体指導を入れる。また、他者との関わりを大切にしつつ、その結果を自分の中で整理する時間を大切にする。 ・教師が、問いかけること、生徒をつなげること等を通して、他者とのやりとりの中で生徒の考えが深まるよう支援する。

【8 仮説の修正】

・昨年度の修正点を引き続き取り組んでいく。

【9 具体的な取組内容の修正】

- ・昨年度修正した取組内容を引き続き取り組んでいく。

※10、11 は、「実績報告書」として年度末に記載する。

【10 生徒の変容（普段の様子から）】

- ①単元の最初に単元計画を示したり、様々な学習状況の生徒が、自分に合った課題を設定できたりしたため、生徒が見通しを持ち、自らの目標を持って学びに向かおうとする生徒が増えた。
- ②相互評価をすることで、生徒が他者からのアドバイスを納得して受け入れたり、他者を評価しながら自らの学習に生かしたりするなど、生徒の学びにつながる他者との交流が増えた。
- ③単元の途中で「わかったつもりになっていたことは何か」「自分に何が足りていないか」という問いかけを教師がすることで、「何ができているか・できていないか」「なぜできていないか」「できていないならどうするか」を分析的に振り返り、次につなげて学びをすすめる生徒がいた。

【11 3年次の研究構想】

- ・4月当初の校内研修会で、研究の概要と取組の経緯、年間のスケジュールを共有することで、見通しを持つ。
- ・教師と生徒の信頼関係づくり、生徒の居場所づくりを意識して、学級経営をすることで、生徒の心理的安全性を高める。
- ・引き続き、職員全員で、生徒が主体的に学びに向かうしかけ作りに取り組みながら、各教科で付けたい力を育成する。
- ・来年度のしかけとしては、生徒が振り返りによるメタ認知の精度を上げ、自己調整しながら他者との関わりの中で学びを深めることができるための、教師による問いかけや足場作り（共有）に焦点を当てる。